

共に助け合い 実践力のある子どもの育成

—特別活動を通して—

小笠原 真理子

Developing proactive children who can support each other

—Through special activities—

Mariko OGASAWARA

キーワード：特別活動 対人関係能力 共感能力

1. 主題設定の理由

最近、青少年にかかわる憂慮すべき様々な問題が顕在化してきており、生きる力の育成や心の教育の重要性が叫ばれている。この問題の原因は、様々な要因が複雑に絡み合った結果と考えられるが、その一つとして、子どもたちの対人関係能力や共感能力、自尊感情の低下が考えられる。人間として大切なこととして、他者とうまくかわり合いながら、自他ともに人間性を高めていくことがあげられる。また、これからの変化の激しい21世紀の社会をよりよく生き抜いていくためには、適切な判断力や思考力、表現力を培い、社会性を体得していくことが重要であるとする。

市の学校教育目標の基本理念である「人間尊重の教育—社会の変化に柔軟に対応できる人間の育成・生きる力を育む—」の視点から、本研究において子どもたちの社会性や実践力を育成する手立てを工夫していきたい。

本校は、『さあ！やってみよう 自分たちの力で』という合言葉を掲げて教育活動を推進し、10年目に入っている。特に、特別活動に

おいて、全校体制で様々な実践を積み重ねてきている。児童会活動だけでなく、学級活動や学校行事、クラブ活動にも子どもたちの発想を大切にし、それらをできるだけ活かし、主体的に取り組むことができるように工夫改善を試みてきた。その結果、自分たちの手で創り上げる活動という意識が高まり、参加態度も士気に意欲的になってきている。また、取り組みを通して、集団としての連帯感が強まり、様々な場面に適した行動の仕方も体得してきている。

しかし、まだ、自己中心的な言動や、基本的な生活習慣や自己表現力、根気強さの欠如、話し合い活動の不活発さなどの傾向が見られる。

そこで、子ども相互のかかわり合いを重視し、自分たちの力で創り上げる活動を多く設定するようにしたい。その過程で、大勢の友達と協力したり問題を解決したりしながら、一人一人のよさを認め合ったり発揮し合ったりする活動を通して、よりよい学級や学校の生活を創り出すための生きて働く力を体得で

きるような支援のあり方を工夫改善していきたい。

2. 仮説

次のような活動の工夫をすれば、よりよい学級や学校の生活を築くために、他者とかかわり合う活動や自主的に取り組む活動を効果的に展開することができるだろう。

- (1) 協力し合える活動や自力解決の体験の場の設定の工夫
- (2) 一人一人のよさや可能性を引き出し、活かす支援方法の工夫

3. 研究の内容

(1) 支援の方針

①集団活動の支援

一人一人のよさや可能性を活かす役割分担がなされ、集団の目標を達成するために自主的に協力しながら企画・運営する活動

(2) 実践例

【学校行事年間計画】

行事の内容	行事名	活動形態	実施月	担当学年・担当委員会
儀式的行事	着任式・始業式	全校	4月	6年
	入学お祝いの式	4・5・6年	4月	6年
	卒業お祝いの式	4・5・6年	3月	5年
	お別れ式	1・2・3年	3月	3年
学芸的行事	芸術鑑賞教室	全校	12月	音楽委員会
健康安全・体育的行事	運動会	全校・縦割り班	5月	計画委員会・5、6年
	プール開き	上学年・下学年	6月	3年・体育委員会
	口腔衛生指導	1年・5年	10月	1年・5年
	薬物乱用防止教室	5年・6年	7月	保健委員会・5、6年
遠足・集団宿泊的行事	全校遠足	縦割り班	5月	計画委員会・6年
	修学旅行・校外学習	各学年	5～1月	各学年
	林間学校	6年	9月	6年
	クリーン作戦	全校・縦割り班	7.11.3月	美化委員会・6年
勤労生産・奉仕的行事	親子除草作業	全校	9月	各学年
	卒業・入学の栽培活動	各学年	9～3月	計画・園芸委員会
	1年生を迎える会	全校	4月	5年
その他	教育実習生お迎え式	全校	5月	4年
	教育実習生お別れ式	全校	6月	5年
	6年生を送る会	全校	3月	5年

をめざす。

②自主的活動の支援

実態に応じた活動計画を立てるとともに、自主的に活動できるための場と時間を十分に保障し、自分たちの計画を自分たちの力で、成し遂げようとする態度を養う。

③実践的活動の支援

子どもの実生活の中から問題を取り上げ、その課題を解決する上で、実践を可能にする適切な場と条件を整える。

④活動の過程を重要視する支援

活動の結果や成果だけでなく、活動そのものに喜びを持ち、自分なりに工夫しながら自主的に取り組んでいる過程を大切にし、評価する。次の活動への自信と意欲につなげるように支援する。

共に助け合い 実践力のある子どもの育成

【児童会活動年間計画】

活 動	活動形態	実 施 月	担当委員会
児童集会	全校	7月・11月	計画委員会
あいさつ運動	全校	9月・11月・1月	計画委員会
募金活動	全校	5月・10月・1月	計画委員会
ふれあい広場	全校	10月	計画委員会
各種壮行会	全校	10月・11月・1月	体育委員会
音楽集会	全校	6月・10月・11月・2月	音楽委員会
歯みがき運動	下学年	6月・7～8月・12～1月	保健委員会
読書運動	全校	6月・11月	図書委員会
一日飼育	全校	年間	飼育委員会
落ち葉掃き運動	4・5年	10月・11月	美化委員会
花いっぱい運動	全校	9月～3月	園芸委員会

【活動実践例1 学校行事 運動会】

①支援工夫の視点

- 子ども一人一人の願いや思いを大切にしながら、子どもなりの創意工夫の活動が実現できるように支援する。
- 全校の子どもたちが一体となって、自分たちの力で楽しい運動会を創り上げることができるよう支援する。
- 活動過程において、自分自身の努力を振り返ったり、友達同士で互いのよさを認め合ったりするなどの場や機会を設定し、次の活動への自信や意欲をさらに高められるように支援する。

②活動の実際

＜ 運営の組織図及び活動内容 ＞



<オープニング・開会式・閉会式の流れ>

[オープニング]

- (1) ファンファーレ (吹奏楽部)
 (2) 聖火入場 (各学年代表児童)
 (3) 校旗・キャラクター旗入場 (3年・6年代表児童)
 (4) キャラクター入場・寸劇 赤組：おにぎり () 白組：うさぎ ()
 (5) 全校ダンス 『気分はエアロビクス』 (計画委員)

[開会式]

司会 ()

- (1) 始めの言葉 ()
 (2) 国旗・校旗掲揚 ()
 (3) 校歌斉唱 ()
 (4) 優勝旗・優勝カップ返還 ()
 (5) 校長先生のお話
 (6) PTA会長さんのお話
 (7) 児童会長の話 ()
 (8) 選手宣誓 (各学年代表)
 (9) 終わりの言葉 ()

() は分担

[閉会式]

司会 ()

- (1) 始めの言葉 ()
 (2) 得点発表 ()
 (3) 優勝旗・優勝カップ授与 ()
 (4) 特別賞発表 ()
 (5) 参加賞授与 ()
 (6) 児童会副会長の話 ()
 (7) 校長先生のお話
 (8) 国旗・校旗降納 ()
 (9) 終わりの言葉 ()

選手宣誓 <各学年代表児童>

- 1年：はくはかけこで1位をとります。
 2年：わたしは、力いっぱい踊ったり走ったりします。
 3年：「ミッキーマウスデビュー」を上手に踊りたいです。
 4年：紅白リレーで、バトンをすばやく渡します。
 5年：応援団で、声を思い切り大きく出します。
 6年：最後の運動会なので、悔いのないように係の仕事を頑張ります。

<会場設営のクラスへの分担>

- 3年1組 キャラクター旗作成
 3年2組 キャラクター旗作成
 4年1組 得点板掲示用キャラクター作成
 4年2組 得点板掲示用キャラクター作成
 5年1組 バックネット掲示用スローガン作成
 5年2組 サッカーゴール掲示用キャラクター作成
 6年1組 全校児童の個人目標記入用の旗作成
 6年2組 キャラクターの衣装作成

＜保護者への案内状の主な内容＞

- ・挨拶文 ・会場図
- ・実施日時（雨天の場合について）
- ・マスコットキャラクターのイラスト
 キャラクターを考えてくれた人の紹介
- ・運動会スローガン

『燃える心はNO. 1

ーゴールはすぐそこ目の前だ！

最後まで走りぬけ！〇〇っ子ー』

- ・計画委員の紹介

＜保護者へのお礼状（一部抜粋）＞

5月26日には、天候に恵まれてとてもよい運動会を行うことができました。たくさんのおうちの皆様に応援に来ていただき、私たちはとてもうれしかったです。

今年の運動会のスローガン『燃える心はNO.1ーゴールはすぐそこ目の前だ！最後まで走りぬけ！〇〇っ子ー』を考えながら、全校のみんなが協力してつくり上げた運動会。みんなで話し合ったり、準備をしたりしただけあって、とても楽しい運動会になりました。

おうちの皆様、応援や協力をしてくださり、ほんとうにありがとうございました。

私たちは、これからもいろいろな行事を計画して、精一杯頑張っていきたいです。これからも私たちのことを見守っててください。応援をよろしくお願いします。

一言感想

- ・小学校生活最後の運動会を、自分の仕事に悔いを残さず、競技も精一杯できたので、とても思い出に残りました。ご協力してくださったおうちや地域の皆様、どうもありがとうございました。（児童会長）

・計画委員になって、開会式の司会も経験できました。自分の仕事に全力を尽くしたので、とても満足しています。これからいろんな行事に積極的に取り組みたいです。（5年）

・私は選手宣誓をやりました。3、4日前から一生懸命に練習しました。いっぱい緊張してまちがえそうになったけど、勇気を出して言ったらうまく言えました。（2年）

・始めの言葉を言うのが近づいてくると、だんだん緊張したけど、頑張ろうと思い、うまく言えました。お家の方々、運動会に協力してくれてありがとうございました。（4年）

・ダンスや応援が楽しかったです。（1年）

・私はリレーに出ました。6年生のお姉さんがやさしく教えてくれました。（2年）

・お昼の時、お母さんが「花笠踊り、きれいに踊れたね。」とほめてくれました。とてもうれしかったです。（3年）

・白組さんも赤組さんもよく頑張ってくれました。みんなで力を合わせたとてもいい運動会でした。お母さんやお父さんに素敵な思い出をどうもありがとう。（PTA会長）

・スローガンのように、〇〇っ子は最後まで走りぬけました。一人一人がよく頑張った素晴らしい運動会でした。実行委員の皆さん、ご苦勞様でした。これからも、自分たちの力でいろいろな活動に取り組んでください。（校長）

【活動実践例 2 第 5・6 学年の活動】

①支援工夫の視点

- 友達と協力して実践課題を決定し、創意工夫しながら自主的に取り組めるように支援する。(年間を通して、全員が最低 1 回は実行委員を経験できるようにする。その際一人一人のよさや可能性を活かす役割分担がなされるよう配慮する。)
- 活動過程において、自分自身の努力を振り返ったり、友達同士で互いのよさを認め合ったりするなどの場や機会を設定し、次の活動への自信や意欲を高められるように支援する。
- 一人一人の活動の工夫や努力の過程でのよさを認め、共感的に評価することにより、活動意欲を高められるように支援する。

②活動の実際

＜ 第 5 学年 実行委員の年間活動 ＞

実施月	学校行事・学級活動・総合的な学習	活動形態	実行委員の主な活動内容
4月	1年生を迎える会	全校	企画・運営＜小学校生活の劇 1年生向けのゲーム歌とダンス＞新聞発行 感想文と写真の掲示
5月	運動会	全校	学年種目の企画・練習計画・準備
6月	修学旅行	学年グループ活動	グループ編制・班長会の進行 しおり作成
6月	教育実習生とのお別れ式	全校	企画・運営＜実習生との思い出紹介 メッセージカード 歌＞新聞発行
7月	親子活動	5年	企画・運営＜親子ゲーム 合奏グループ発表 感想発表＞
7月	薬物乱用防止教室	5年	司会・進行 お礼の挨拶 感想文掲示
9月	海の安全教室	5年	司会・進行 資料作成 お礼の挨拶 お礼状取りまとめ 感想文と写真の掲示
9～3月	卒業・入学に向けての栽培活動	全校	各学年の花の決定 栽培計画・準備・世話 新聞発行
10月	口腔衛生教室	5年各学級	司会・進行 お礼の挨拶 感想文掲示
11～3月	NHK放送体験クラブ	学年グループ活動	グループ編制の進行 練習の計画・準備 お礼の挨拶 お礼状取りまとめ
1月	留学生との交歓会	5年各学級	司会・進行 歌と合奏の練習計画 留学生の案内・紹介 お礼の挨拶 お礼状取りまとめ 感想文と写真の掲示
2月	6年生を送る会	全校	企画・運営＜第1部：縦割り班活動⇒手作りプレゼント 寄書き 集合写真 第2部：全校⇒学年発表 全校合唱＞学年発表の準備 新聞発行
3月	学級対抗スポーツ大会	5年	企画・運営
3月	卒業バイキング給食	6年	招待状作成 会場設営
3月	卒業お祝いの式	4・5・6年	司会・進行 会場設営 校舎内飾り付けの計画 お別れの言葉・合唱の練習計画
3月	学級お楽しみ会	学級グループ活動	企画・運営
4月	入学お祝いの式	2・5・6年	司会・進行 会場設営 1年生の世話 保護者の案内

《 第5・6学年 卒業行事への取り組み 》
くお祝いの式までのプロセス>

卒業生の取り組み

- 1月 ☆実行委員会の組織
☆卒業アンケートの実施
☆スローガンの募集 決定
“L E T’ S 前進”
☆卒業に向けての活動内容の決定
○感謝の気持ちの表現方法
学校・在校生・親・先生方
○6年生を送る会
お礼の言葉 お礼の演技
○卒業お祝いの式
式場図 入退場方法 証書授与
お別れの言葉・合唱
- 2月 ☆記念品作り
学校へ⇒雑巾 ペーパーホルダー
親・先生⇒クッキー ティッシュボックス
☆親子活動と送る会の準備・練習
☆校長先生との会食
☆お別れの言葉と合唱の決定・練習
- 3月 ☆朝の挨拶運動
☆学校施設の奉仕作業
☆6年生を送る会
☆卒業お祝いの式の準備・練習
☆卒業お祝いの式の退場曲の練習
(リコーダー演奏)
☆卒業お祝いの式

<卒業アンケート 対象：6年生>

私たち実行委員は、自分たちの手で創る卒業の行事にするため、その内容について考えています。みなさんの願いやいろいろなアイ

ディアを取り入れたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

- 1 スローガン
- 2 学校・親・在校生・先生方への感謝の気持ちの伝え方
- 3 ○○小学校で学んだことや思い出
- 4 学校・親・在校生・先生方へのメッセージ
- 5 6年生を送る会や卒業お祝いの式の内容（送る会の出し物 お別れの言葉等）

5年生の取り組み

- 9月 ★栽培活動の呼びかけ 種まき
- 1月 ★実行委員会の組織
★卒業アンケートの実施
★スローガンの募集 決定
“はばたけ卒業生！
中学生への第一歩”
★卒業カウントダウン制作
★卒業に向けての活動内容の決定
○6年生を送る会
・1部 縦割り班活動
寄書き 記念写真
手作りプレゼント
・2部 全校活動
各学年出し物
○卒業おめでとうバイキング給食
招待状作成 会場設営
○卒業お祝いの式
司会・進行 校舎内掲示
会場設営 お別れの言葉・合唱
★役割分担（一人一役）
- 2月 ★縦割り班活動… 寄書き作成

写真撮影 プレゼント作り

(フォトケース)

★6年生を送る会の準備・練習

★お別れの言葉と合唱の決定・練習

3月 ★6年生を送る会

★卒業おめでとうバイキング給食準備

★式の準備・練習 ★司会進行の練習

★卒業お祝いの式

<卒業お祝いの式 司会5年児童の感想>

○私は司会の経験は何回かあるけれど、6年生にとっては絶対に1回だけの大事な式だから、みんなの代表として頑張ろうと思いました。司会の言葉を考えたり体育館で何度も練習したりして、失敗しながらもみんな協力して活動できました。(中略) またやりたいです。

○ぼくは司会をやると決まった時、本当にできるのかなととても不安でした。(中略) 手には汗がついて、緊張と戦いながら、司会の言葉を言いました。(中略) 先生方が「とっても上手だったよ。」とほめてくれました。自信がついて、とても満足しています。

<卒業・入学へ向けての栽培活動>

[各学年へのアンケート]

卒業・入学を祝う会

会場の花作りについて

「卒業・入学お祝いの式」の会場を、全校のみんなで育てた花でかざってお祝いしましょう。

1 () 年

2 育てたい花の希望

第1希望 ()

第2希望 ()

第3希望 ()

3 用具 どちらかに○印

植木鉢 プランター

4 必要な肥料や用具

[]

※○月○日に実行委員が集めに行きますので、よろしくお願いします。

[各学年で栽培した花]

1年：チューリップ

2年：スイセン

3年：パンジー

4年：菜の花

5年：ノースポール

<卒業おめでとうバイキング給食>

[6年生への招待状の一部]

6年1組 () さんへ

◎バイキング給食のおさそい

日時・・・ 3月○日 12時10分～

会場・・・ ランチルーム

ご卒業おめでとうございます！

あと半月で卒業ですね。そんな6年生のために給食室の先生方が時間をかけ、心をこめて、たくさんのおいしいバイキング給食を作ってくださいます。私たち5年生も、心をこめて会場のかざり付けをします。3月○日は、おなかをすかせておいて、おなかをいっぱいにしなが、みんなで楽しいバイキング給食にしてください。○○小学校の給食の味をしっかりと覚えて、よい思い出をつくってください。

5年1組 () より

<卒業お祝いの式 司会原稿の抜粋>

A児：「まもなく、卒業、お祝いの式が始まります。お世話になった在校生を代表して5年（ ）（ ）（ ）が司会を務めさせていただきます。よろしくお願いします。」

{ 約5秒間 合図があったら }

「卒業生の入場です。」

{ 1組の先頭が一步、歩いたら }

「6年1組 ○○学級。」

{ 2組の先頭が一步、歩いたら }

「6年2組 ○○学級。」

{ 全員が着席後 約3秒 }

「これから、平成○年度、卒業お祝いの式を始めます。」

(中略)

B児：「卒業証書 授与。6年間の歩みの印として、卒業証書を校長先生より渡していただきます。」 { 司会者 着席 }

{ 校長先生が着席後 約2秒 }

「校長先生より、励ましのお言葉をいただきます。」 { 司会者 着席 }

{ 卒業生が着席後 約2秒 }

「ここで、本日ご出席くださっております、来賓の方よりお祝いの言葉をいただきます。」

(中略)

C児：「私たちのよきリーダーとして活躍された卒業生の皆さんと、在校生による、お別れの言葉です。」

{ 校長先生が自席に戻られたら }

「卒業生、在校生、おすわりください。」

{ 約5秒間 }

「卒業生の退場です。退場の曲は、()です。この曲は、卒業生の皆さんがリコーダー

で演奏した曲です。」

{ 先頭が一步出たら }

「拍手で卒業生をお送りしましょう。」

{ 先頭が出口近くまで進んだら }

「式場に飾られているお花は、在校生が昨年9月から心を込めて、育ててきたお花です。」

「以上で、卒業お祝いの式を終わりにします。」

{ 約2秒 } 来賓の皆様、ご退場ください。ありがとうございます。 { 退場後 }

「保護者の皆様、ご退場ください。」

<6年生を送る会>

第1部 縦割り班活動 (なかよしタイム)

[5年生の司会原稿]

6年生を送る会

1 日時 3月○日 ()

第1部 8:30~ 9:00

第2部 9:20~11:00

2 開催形態 第1部 なかよしグループ

第2部 全校

3 会場 第1部 なかよし活動の各教室

第2部 体育館

4 活動内容

第1部 会の流れ

司会進行 5年 ()

(1) はじめの言葉<5年>

司会：これから、なかよしグループの6年生を送る会を始めます。6年生の皆さんは、この会を最後の思い出として楽しんでください。はじめの言葉を5年 () さん、お願いします。

(2) お礼の言葉<4年>

司会：お世話になった6年生に、お礼の言葉を4年 () さんが代表して言

います。お願いします。

(3) プレゼント贈呈＜1. 2. 3年＞

司会：次に、プレゼントを6年生に渡します。1年生が作った首飾りは1年生が渡します。全員で書いた寄書きは2年生が渡します。4、5年生の手作りプレゼントは3年生が渡します。1年生から順番に一言添えて渡してください。

(4) お礼の言葉＜6年＞

司会：最後は、6年生からのお礼の言葉です。一人ずつお願いします。1年生から5年生の皆さんは、静かにしてしっかりと聞きましょう。

(5) 終わりの言葉＜5年＞

司会：終わりの言葉を、5年（ ）さんお願いします。

司会：6年生は楽しい思い出ができましたか。これで、なかよしグループによる6年生を送る会を終わりにします。6年生の退場です。拍手で送りましょう。

[5年生の活動予定]

- ・前日の6時間目の終わり頃、各教室にプログラムや絵を黒板に書きに行く。6年生の教室には画用紙に書いたプログラムを貼る。
- ・当日持って行く物
寄書き プレゼント 司会原稿
筆記用具
- ・各教室に着いたら、すぐに椅子の準備をする。
- ・寄書きやプレゼントは、5年生から2、3年生に一つずつ手渡して、6年生に渡してもらう。

[活動振り返りカード]

卒業行事の役割

送る会のプログラム作り 氏名（ ）

活動への取り組みについて

1 工夫したこと	1年生が読めるように、漢字には読みがなをふった。プログラムのまわりに、桜紙で花を作って貼ったり、絵をかいたりした。
2 努力したこと	みんなが見やすいようにきれいな字で大きく書いた。絵はその言葉に合った絵をかいた。
3 こうすればもっとよくなることや直した方がよいこと	お花はいろいろな色があったので、それを順番に貼っていくはずだったけれど、ばらばらになってしまった。貼る前に、みんなできよく話し合っておけばよかったと思う。
4 友達から	字がていねいで大きかったので、とても見やすかった。 絵やお花もきれいで、明るい感じになってよかったです。
5 先生から	毛筆で、とてもていねいに書けていて感心しました。みんな見やすかったと思います。 すてきなアイデアで、友達と協力しながら手際よく完成させることができましたね。ごくろうさまでした。

4. 研究の成果

(1) 仮説(1)について

○教師が活動内容を詳細に指示するのではなく、できるだけ子どもたち自らが課題を見つけ、主体的に取り組むためには、目標の明確化、見通しを持った計画作り、計画的に活動を進めるための資料作り、話し合い活動の重視、振り返りカードの活用、自由に使用可能な部屋の割当てなどが必要であることが確認できた。

○代表委員会・計画委員会の課題を、実行委員会や各種委員会と連携を密に図ることにより、徐々に全校の取り組みにまで高めることができた。そして、各学年や学級の実態に応じた子どもなりの参加意識を持ち、自分たちの力で思い出に残る楽しい行事を創ることができた。具体的な手立てとして、集会活動、全校へのアイデア募集、協力呼びかけ新聞の発行、校内放送の活用、掲示コーナーの活用、各教室訪問、個別支援などの活動である。

○さまざまな行事などの企画・運営をできるだけ子どもたちの手で進めさせたことにより、子ども相互のかかわり合いが活発化し、自分の考えの伝え方や友達の意見の聞き方を習得したり、友達と協力して問題を解決したりして、一人一人の意欲と自信を高めることができた。

(2) 仮説(2)について

○自分たちの目標を達成するための活動を通して、友達の優しさや思いやりに触れ、それまで気づかなかった友達のよさを知り、認め合うことができるようになって

きた。また、一人一人のものの見方・考え方の違いに気づいたり、友達の立場に立って考えたりして、互いに尊重し合いながら皆で成長し、よりよい集団をつくっていかうとする仲間意識が育ってきている。

○活動終了後、振り返りカードや作文により、自身の取り組みの工夫や努力、成果を認識しやすいようにした。また、友達の努力や活躍を賞賛し合う場を設けたり、教師の言葉かけや手紙により一人一人の取り組みの努力や過程を賞賛したりすることにより、次の活動への主体的な取り組みへと発展させることができた。

○多少の困難を伴う活動であっても、子どもの可能性を信じ、子どもなりの活動に委ねるよう、教師の支援体制を改善するように努めた。そのことが子どもたちののびのびとした自分らしい活躍につながり、自主性やリーダー性を伸ばし、一人一人の成長を見取ることができた。

5. 今後の課題

○話し合い活動やグループ活動での司会や記録の方法、提案の方法や意見のまとめ方などの話し合いの基本的なルールを日常的に指導し、身に付けさせていくことが大切である。また、各教科学習で学んだ成果が、特別活動に総合的に活かされるため、基礎的な学力を定着させていくことが重要である。

○友達のよさや立場を理解しようとせず、批判的な態度をとる子どもも中にはいる。日頃、子ども同士の人間関係をよく観察

し、適切な個別指導を実施したり、教科学習においても、友達のよさを皆で認め合い、活かし合っていく活動を積み重ねていく必要がある。

○子ども一人一人が個性を豊かに発揮しながら活動できるように、教師の特性を活かし合った協力的な指導体制を工夫していく必要がある。

○子どもたちの主体的な活動を可能な限り尊重し、自分たちの力で取り組ませるためには、適切な時数の配当が必要不可欠である。子どもたちが思考・判断する時間を十分に保障し、ゆとりのある活動計画を作成していきたい。また、活動内容の精選や効率的な取り組み、計画の見直し等も検討していきたい。

○特別な配慮を必要とする子どもや気になる言動の見受けられる子どもについては、その学級担任と各活動の担当教師との緊密な連携が重要である。